

第2回未来投資会議（平成28年11月10日）での総理発言（抜粋）

団塊の世代が75歳を迎える2025年は、すぐそこに迫っています。健康寿命を延ばすことが、喫緊の課題です。この『2025年問題』に間に合うように『**予防・健康管理**』と『**自立支援**』に軸足を置いた新しい**医療・介護システムを2020年までに本格稼働**させていきます。

医療では、データ分析によって個々人の状態に応じた予防や治療が可能になります。**ビッグデータや人工知能を最大限活用し、『予防・健康管理』や『遠隔診療』を進め、質の高い医療を実現**していきます。



日本の隅々まで質の高い医療サービスが受けられる。高齢者が生き生きと暮らせる。社会保障費が減っていく、ということになるわけでありまして、これらを一気に実現する医療のパラダイムシフトを起こしていかなければいけません。

介護でも、パラダイムシフトを起こします。

これまでの介護は、目の前の高齢者ができないことをお世話することが中心でありまして、その結果、現場の労働環境も大変厳しいものでもありました。

これからは、**高齢者が自分でできるようになることを助ける『自立支援』に軸足**を置きます。

本人が望む限り、介護が要らない状態までの回復をできる限り目指していきます。

見守りセンサーやロボット等を開発し、そして導入し、介護に携わる方々の負担を軽減するとともに、介護現場にいる皆さんが自分たちの努力や、あるいは能力を生かしていくことによって、要介護度が下がっていく達成感を共に味わうことができるということは『**専門職としての働きがい**』につながっていくということではないか、とこのように思います。

スピード感をもってパラダイムシフトを起こすため、特定の先進事例を予算などで後押しするだけでなく、医療や介護の報酬や人員配置基準といった制度の改革に踏み込んでいきます。目標時期を明確にし、そこから逆算して実行計画を決めます。

第2回未来投資会議

医療・介護分野におけるICT活用

平成28年11月10日
塩崎厚生労働大臣 配付資料

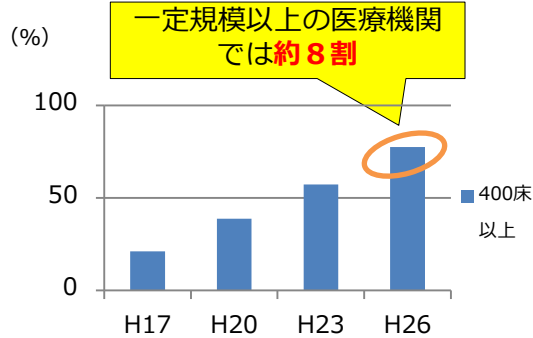
医療・介護分野におけるICTの活用と課題①

1. デジタル化・標準化

○電子カルテの普及を推進

◆電子カルテの普及状況

出典：厚生労働省医療施設調査



○医療データの標準規格を策定

例

- 情報の交換規約 (交換するデータの項目、記載ルール)
- 用語/コード (医学用語、検査コード等)
- フォーマット (放射線画像、心電図の波形等)

2. ネットワーク化

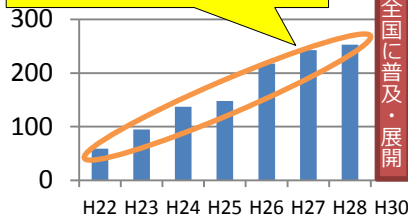
○地域の医療機関などが患者情報を共有するネットワークの構築を推進

◆ネットワーク数の推移

※予定含む

出典：日医総研

年々ネットワーク数は増加(約250)



ネットワークで共有される情報閲覧の画面例

例

- あじさいネット (長崎県)
 - 晴れやかネット (岡山県)
- 県全域で治療や調剤に関する情報をネットワークに参加する病院、診療所、介護事業所等で連携



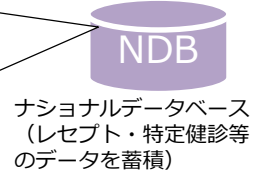
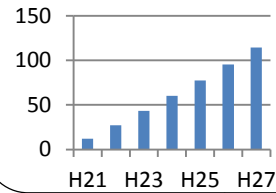
3. ビッグデータ化

○健診・医療・介護のレセプトを中心とした公的データベースを整備・拡充

◆レセプト件数

平成21年度～ 収集開始

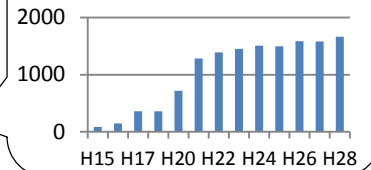
(億件) 出典：厚生労働省調べ



◆対象病院数

出典：厚生労働省調べ

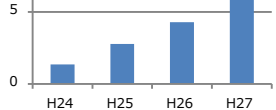
DPCデータ (急性期病院の入院のレセプトデータ等を蓄積)



平成28年度中 構築

◆レセプト件数

(億件) 出典：厚生労働省調べ



介護保険総合データベース (介護保険レセプトデータと要介護認定データを蓄積)



現在までの取組

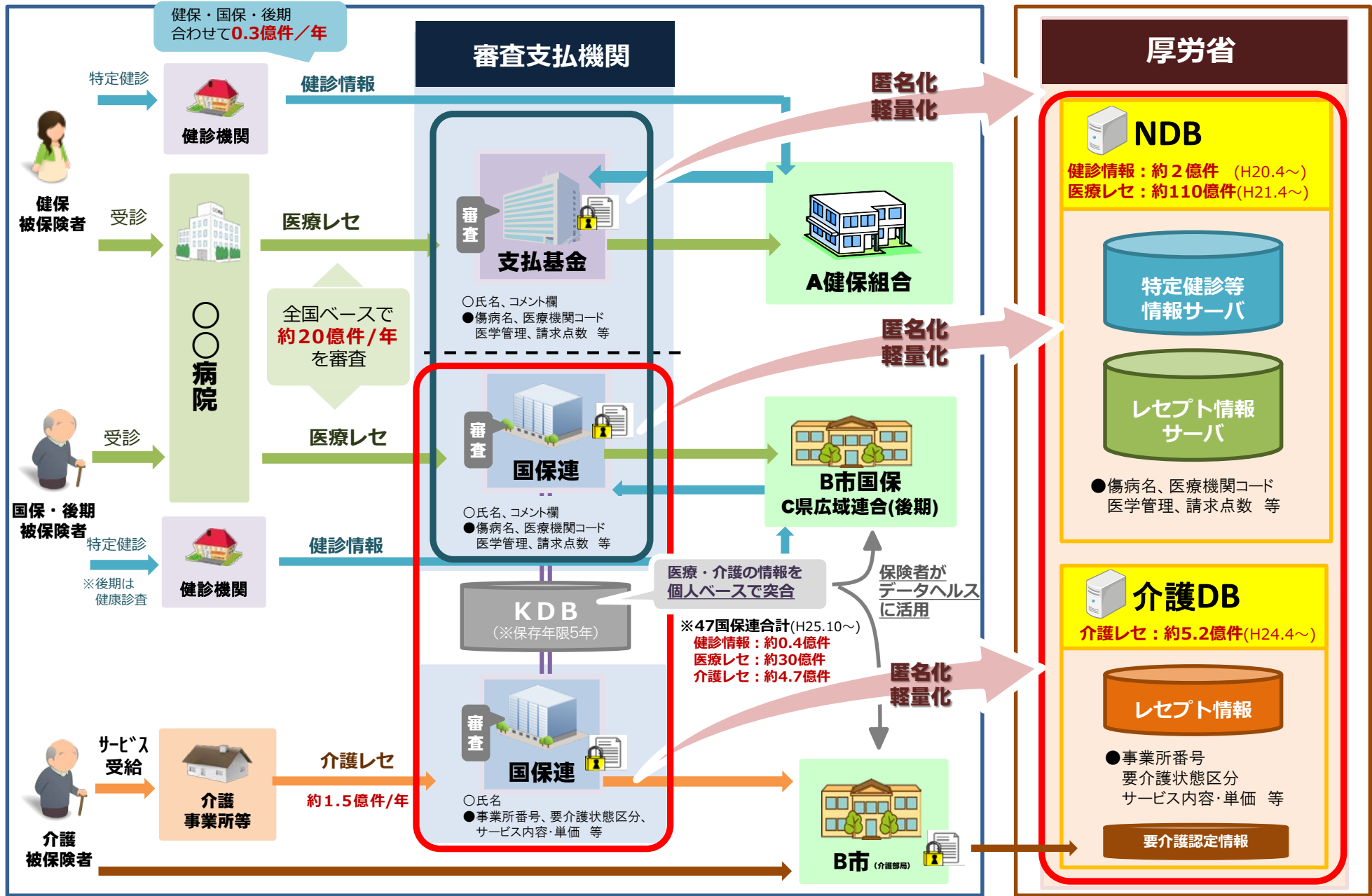
今後の課題

- 電子カルテの互換性が不十分で、分析に足りるデータの標準化・ルール化がなされていない
- 従来標準化してきた医療データは、治療実績 (アウトカム) が比較検証できるデータが十分でない
- 良くなるための介護のケア内容のデータがなく科学的分析がなされていない

- ネットワークが、域内の医療機関の参加率が低い上、全国統一のインフラとなっていない
 [ネットワークの相互利用や全国的共有のための全国共通の医療等IDの導入が必要 (平成32年からの本格運用を目指す)]
- 個人の健康なときから疾病・介護段階までの基本的な健康づくり・健診・医療・介護データが統合されていない

- 現在のデータベース間では、データの連結ができておらず、健康づくり・健診・医療・介護を通じた分析ができない
- レセプトに基づく情報が中心で、カルテの有用な情報の活用が限定的
- データベースについての産官学の利用環境が整っていない (匿名化やデータの提供ルール等)
- 健康・医療データを活用した疾病予防などの保険者機能の発揮が不十分

医療・介護分野におけるICTの活用と課題②



蓄積したビッグデータを国民・患者のために活用(真のデータヘルス)

【用語注釈】NDB=レセプト情報・特定健診等情報データベース、KDB=国保データベース

ICT・AI等を活用した医療・介護のパラダイムシフト

- 厚生労働省では、ICT・AI等を活用した医療・介護のパラダイムシフトを実現するため、
 - ・「保健医療分野におけるICT活用推進懇談会」を昨年11月より開催。ICTを活用した次世代型の保健医療システムの姿について、先月（10月）にとりまとめ
 - ・「データヘルス時代の質の高い医療の実現に向けた有識者検討会」を本年4月より開催。ICT・ビッグデータの活用による保険者機能の在り方等について、本年中にとりまとめ予定

3つのパラダイムシフトと3つのインフラ

つくる

集まるデータ



生み出すデータ

データの収集段階から、集積・分析・活用（出口）で使える
アウトカム志向のデータをつくる

<インフラ>

最新のエビデンスや診療データをAIを用いてビッグデータ解析し、
現場の最適な診療を支援するシステムを構築

つなげる

分散したデータ



データの統合

個人の健康なときから疾病・介護段階までの
基本的な保健医療データをその人中心に統合する

<インフラ>

医療・介護スタッフに共有され、個人自らも健康管理に役立てる
全ての患者・国民が参加できるオープンな情報基盤を整備

ひらく

たこつぼ化



安全かつ開かれた利用

産官学のさまざまなアクターがデータにアクセスして、
医療・介護データをビッグデータとして活用する

<インフラ>

産官学の多様なニーズに応じて、医療・介護データを
目的別に収集・加工（匿名化等）・提供できるプラットフォームを整備

ICTの利活用が「供給者目線」から
「患者・国民目線」になるように作り変え、
以下を実現

ビッグデータ活用やAIによる分析

診療や治療が難しい疾患でも、**個人の症状や
体質に応じた、迅速・正確な検査・診断、治療が
受けられる**

ICTを活用した遠隔診療や見守り

専門の医師がいない地域の患者や、生活の中で
孤立しがちなお年寄りでも、**遠隔医療や
見守りなどの生活支援を受けられる**

地域や全国健康・医療・介護情報ネットワーク

どこでも誰でも、自身の健康・医療・介護情報が
医師などに安全に共有され、かかりつけ医と
連携しながら**切れ目ない診療やケアを受けられる**

ビッグデータ活用によるイノベーション

疾患に苦しむ様々な患者に、**最新の治療法や
医薬品**を届けられる。

ICTを活用した自立支援・重度化防止に向けた介護に関する取組の展開

1. 「科学的に裏付けられた介護」の普及

<課題>

- 現在の介護保険総合データベースでは、サービス種別は分かっていても、**提供されたケアの内容までは記録されていない。**

<現状>

同じ通所介護でも…

自立支援指向の介護

本人ができる部分はしてもらい、できない部分は介助しつつ訓練。

自立支援を意識しない介護

本人ができる部分についても介助をしてしまう。

データベース上はどちらも「通所介護」とされ、区別できない。

データベースを分析しても、どのようなケアが自立につながるか分からない。

<今後の具体的な取組>

- 提供されたケアの内容までデータベース化し、同じサービス種別であってもケアの内容で区別できるようにする。

例) 入浴

自立支援指向の介護

脱衣：できない部分のみ介助
移動：浴槽をまたぐ訓練

自立支援を意識しない介護

脱衣：介助者が全て介助
移動：リフト使用

データベース上それぞれのケアの内容により区分する。

- データベースの分析によって、「科学的に裏付けられた介護」の**普及**が可能になる。
- 介護報酬等での評価によるインセンティブ付けの検討。

2. 介護ロボット・ICTの活用

<課題>

- 介護現場での**介護ロボット・ICTの活用が進んでおらず、負担軽減のアウトカムの実証・評価も十分なされていない。**

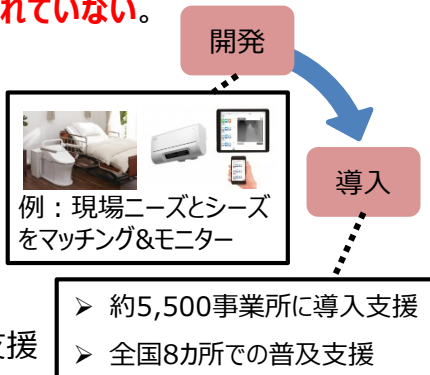
<これまでの取組>

(開発)

- ✓ 開発メーカーへ現場ニーズの提供
- ✓ 介護現場での試作機モニター調査

(導入)

- ✓ ロボット導入に対する予算上の支援
- ✓ ロボット試用機会の提供による普及支援

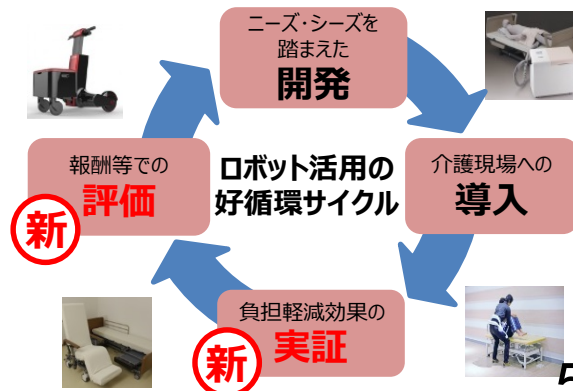


<今後の具体的な取組>

- 開発・導入の直接支援強化に加え、**そのアウトカムの実証・評価**により、さらなる介護ロボット等の開発・導入を実現。**ロボット活用の好循環サイクルを創出。**

- 現場に最も近い厚労省が主導し、新たに以下の取組を実施。

- **負担軽減のアウトカムの実証**
- **介護報酬等での評価によるインセンティブ付けの検討**

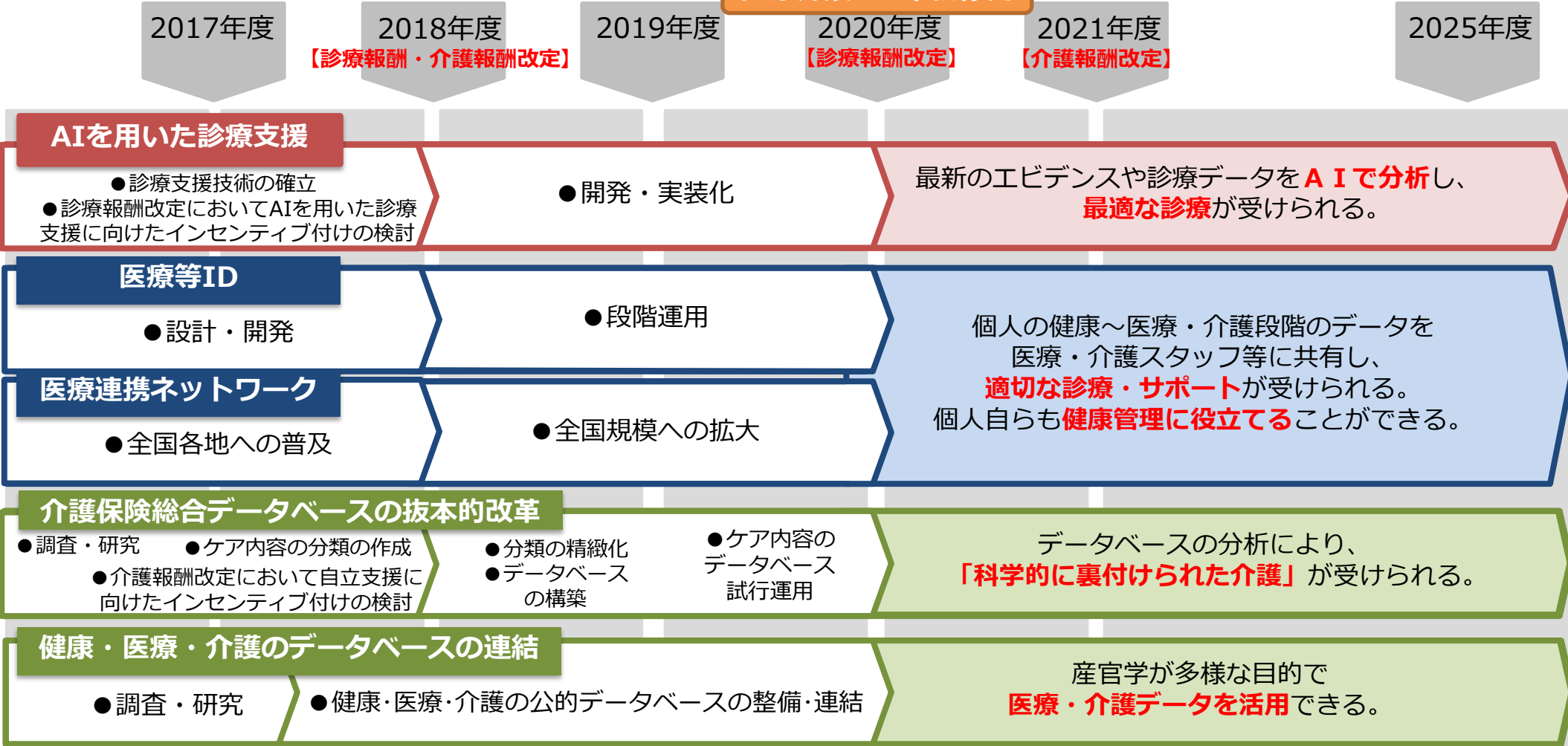


ICT・AI等を活用した医療・介護のパラダイムシフト（工程表）

- AIやIoT等のICTを活用した診療支援や遠隔医療、見守り、ロボット等の技術革新を、医療・介護の枠組み（診療報酬・介護報酬）の中に、**現場や国民がメリットを実感できる形で、十分なエビデンスの下に組み込み**

医療介護ICT本格稼働

※本格稼働後も技術革新に合わせ機能を拡充



データヘルス時代の質の高い医療の実現に向けた有識者検討会

- 審査支払機関を『業務集団』から『頭脳集団』に改革
- 基盤となる**データプラットフォーム**の構築

- 審査支払機関も保険者もそれぞれが質の高い医療を実現